

# 関西大学の傾向と対策

## ①出題パフォーマンス（種類・形式・分野）

- ① 学部個別が4日間・全学部統一が2日間の6種類。
- ② 60分 = 大問4問で50問のALL選択
- ③ 空所補充 … リード長文内の空所補充を大量語群（40～50用語からの選択）より選択・一問一答による用語四択が全体の7～9割（日程により異なる）。年代を空所補充する問題が3～5問あり \*重要事件の並べ替えも少々（1～2問）
- ④ 正誤問題 … 2文・4文の正誤（1～2行程度・人物の業績・条約内容・王朝の特色など）・リード長文内の間違い用語探し。 \*苦手者は無理をしないで空所補充に全力を尽くす
- ⑤ 文化史>戦後史 … 文化史はコンスタントに出題される（用語集の赤字・人物一作品・著書・業績などの一問一答ができれば8～9割カバーできる）。戦後史は大問で出題される日程があり、出題されるとハイレベルも出題されるが多くの受験生ができないので差はつかない。戦後史は年代に注意したい。文化史・戦後史ともに繰り返し同じ地域が出題されるので、過去問チェックは必須。
- ⑥ テーマ史・各国&地域史での出題が多いため、古代から戦後史が満遍なく出題される（\*この場合、戦後史は1～2問程度で少ない）。大半の日程において、大問4問中2問程度ある。

## ②傾向から読む絶対対策

- ① 同日程で2～3年連続で「同じ単元・地域」が出題される。まったく同じ単元のこともあるが、前年出題された国や地域の「異なる時代（イギリス革命の出題があれば、19世紀のイギリスが狙われるなど）」や「同じ単元の違う地域」（ルターの宗教改革の出題があれば、カルヴァンの宗教改革が狙われるなど）が大問で1～2問（30～35点）ほどある  
⇒ 受験する同日程の過去3年分の問題には必ず目を通し、時代や地域の幅を広げて学習し直す必要がある。
- ② スライド出題 … 他大学でも同様だが、昨年・一昨年の他学部の問題と酷似したものが出題される（大問が同じというより、小問で全く同じ解答になるものがある）  
⇒ 他学部の昨年・一昨年のうち、受験学部にはまだ出題されていないモノをピックアップ！  
テーマ史の出題は要注意。同様なテーマは大問にはならないが、小問で出題されえる可能性がとて高い。
- ③ 本年度の出題情報（特に2/1・2/3・2/4） = 2020年の流行 から … とにかく、本年度の問題を入手し、できる限り、その日のうちに内容を確認する。できない問題はしっかり調べておかないと、必ず他の日に出版されて困ることになるだろう。もし、流行を当てたいのなら

ば、すべての学部の6か年データから「2020年」「2019年」「2018年」のそれぞれの年で、**複数回出題されていない「単元やテーマ・国や地域」**をチェックし、それが流行する可能性が高いと判断して、しっかり潰しておく！

⇒ 試験前日までに実施された**本年度に出題された「歴史用語」**には必ず目を通しておきましょう！また出ます！

- ④ 地図を気にしながら … あまり、同じ地図は出ないが…。年6日程のうち、半分の日程では出題される。敢えて言えば、**西アジア・インド・東南アジア・中国・ヨーロッパの代表都市**は絶対に押さえておきたい！ 地図が出題されなくても、**川の名前、半島の名前、島の名前**など地理的要素を空所補充させることが少なくないので、教科書レベルの地理要素は地図と共に必ず確認しておきたい。
- ⑤ 年代をどこまで覚えるべきか？ … **50問中3～4問（6～8点分）**出題される。**有名な事件（内乱や反乱も含む）・戦いや条約・王朝の変わり目**が空所補充や世紀正誤で出題されるのが普通。稀に、有名人物の即位期・生きていた時代と同じ時代のモノを選ばせるやや難問が出題されるがあって1～2問なので、これに対応できるほどの努力はいらぬ。
- ⑥ 人物の業績 … とにかく出る！業績が複数ある有名人物（国王・皇帝・教皇・武将・宰相・首相・大統領など）については、単語カードを利用した業績当て学習が効果的である。